

医療 MEDICAL CARE 新世紀

アレルギー科、推奨外の治療も

厚労省 実態調査で判明

「アレルギー科」と表示している医療機関でも、専門学会が推奨する標準的な診療が行われているとは限らない。そんな実態が厚生労働省研究班の調査で分かった。何らかのアレルギー症状を抱える人は国民の約半数に上るとされる。このため日本アレルギー学会は「学会員でなくても標準的な治療法に通じている必要がある」として、会員外の医師も参加できる講習会の開催など、研修の強化に乗り出した。

「この20年で大きく進歩したアレルギーの治療法を、療科目に「アレルギー科」関連学会が診療ガイドライン(指針)にまとめてきたが、もっと普及させなければと痛感した」。日本アレルギー学会理事長の齋藤博久・国立成育医療研究センター副研究所長はそう話す。同学会に入会していた人は52%、アレルギー専門医の資格を持っていた人は30%であった。



齋藤 博久さん



栗山真理子さん

医師アンケートの回答にみられた推奨外のアレルギー診療内容の例

内容と頻度	推奨されるのは
食品で「アナフィラキシー」を経験した患者に「エピペン」を処方しない (51%)	処方する
「抗原特異的IgG抗体」を検査する (4%)	アレルギーの原因食品診断には使わない
ステロイド外用薬をできるだけ薄くのぼして塗るよう指導する (23%)	適量の目安を守り、すり込まない
入浴時のせっけん使用を禁止する (8%)	禁止しない

※齋藤博久氏による

学会 講習会開催、研修体制を強化

%と少なかつた。それでも指針に沿った回答が多かつたが「一部問題のあるケースがあつた」(齋藤さん)。例えば、食品で「アナフィラキシー」と呼ばれる急性の全身アレルギー症状を経験した患者には、緊急時に注射し症状を一時的に和らげるアドレナリン自己注射薬「エピペン」の処方する割合が、医師に受けてもらえると答えた医師は49%にとどまつた。残りの51%は処方していないことになつた。

問題ある検査も

アトピー性皮膚炎の治療に際し、患部に塗るステロイド外用薬には、十分な効果を期待するため適量の目安があるが「できるだけ薄くのぼして塗るよう指導する」との望ましくない回答が23%あつた。入浴時のせっけん使用は禁止しないのが標準だが、8%が「禁止する」と答えた。

患者会の情報発信

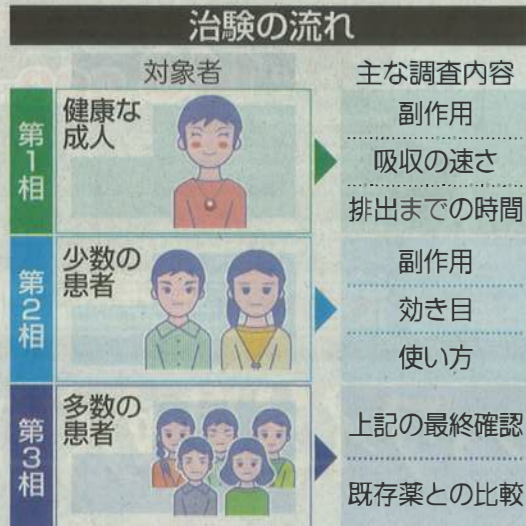
今回の調査は、アレルギー疾患の患者会「アラジニポット」(栗山真理子代表、会員約1700人)が「指針に準拠していない診療もあるのではないか」との疑問を厚労省の会議で提示したのが発端になつた。栗山さんは「会への相談などから、古い常識に基づいた指導を医師から受けている患者も少なからずいるとの印象を持っていた。医師の裁量はとも大切だが、指針の基本を踏まえてくれていると分れば患者は安心して診療が受けられる。私たちも、昔とは治療の常識が変わつてきていることを患者会の立場から情報発信していきたい」と話す。アラジニポットの活動についてはサイト(<http://www.allerjpot.net>)を参照。(共同＝吉本明美)

臨床試験の体験談募集

医学を歩ませる臨床試験、中でも新薬や医療機器の承認申請に当たって製薬会社が実施する治験には、被験者として参加する患者の協力が欠かせない。患者の目に臨床試験や治験がどう映っているのかを分析し、制度の見直しなどに役立てようと、文部科学省の研究班(主任研究者＝武藤香織・東京大医科学研究所教授)が参加経験者の体験談を募集している。

薬の治験は、健康な人を対象に安全性や薬の吸収・排出などを調べる第1相試験、少数の患者で有効性や安全性などを調べる第2相試験、さらに多数の患者が参加する第3相試験の3段階から成る。治験以外にも、

患者目線で制度見直し



医学研究のさまざまな場面で患者が関わっているが、これまで患者の立場からの意見は十分に集約されていなかった。募集対象は①治験や臨床試験に参加して終了した人

②打診や説明を受けたが断つた人③参加したが医師の判断で中止となつた人④何らかの理由で本人が中断を申し出て中止となつた人⑤など。自宅や会議室で話してもらい、研究班のスタッフがビデオカメラや録音機器を使って収録する。NPO法人「健康と病いの語りディベックス・ジャパン」のホームページ(<http://www.dipex-j.org>)で来年3月に公開予定。ただし氏名は公表せず、映像や声の公開も患者本人が選択できる。武藤さんは「体験談は、治験や臨床試験への参加を検討する患者さんや医療者、薬の開発者にとって大変役立つ。ぜひ参加してほしい」と話す。応募は3月末まで。参加方法などの問い合わせは医療科プロジェクト担当、電話03(6409)2079(平日午前10時～午後4時)へ。

からだ・なんでも



警察官、消防士、看護師の方から、夜勤に伴う睡眠の問題について相談を受けることがありますが、夜勤は心身にとても大変な仕事ですが、警察、消防署、病院は夜だからといって休んでいられない。夜勤に従事する人たちが私たちの夜の安心を支えてくれていることを考えれば、この解決は私たち共通の課題です。生物学的にみると、私たちは昼行性の哺乳類です。何十年も前から日中に活動し夜間に休息をとる生活を続けてきました。人間の体内時計は、いつもの起床時刻の2時



送料で販売する。問い合わせはコムル、電話06(6314)1652。
■「助言」の半分はでたらめ
カナダの研究チーム発表
米国などで人気の医療情報テレビ番組で紹介される「助言」の半分はでたらめ。

■「いのちとからだの10か条」作成
将来賢い患者になるために、命や体を大切に意識を子ども時代から持つてほしいと、大阪のNPO法人「ささえあい医療人権センターCOML(コムル)」が小学生向けに心